

手紙
お返しはあつて
す

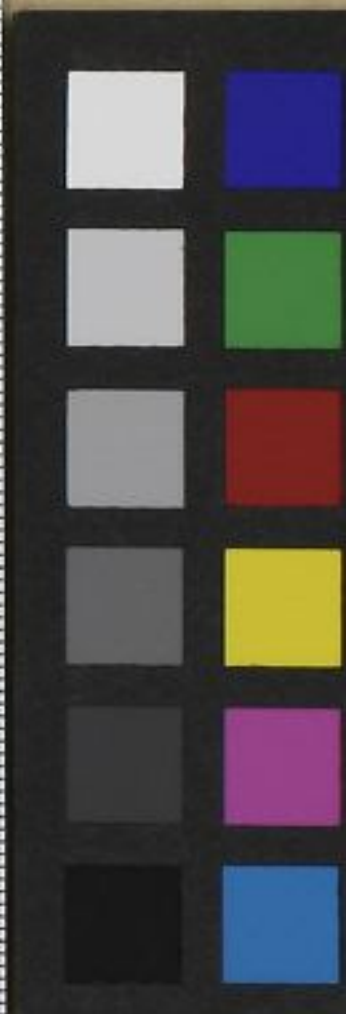


小石川区高田
本園之
雄様
七
様
様

三月十一日

本林田恒友

市外代々木区



十月廿九日

御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

候御座候に於て申上

いふに各々いふ事
をとりあつては
上より金きます
得存ふはむの
ひはりません
取あへはは
半くうらうら
に未は合は
寫しけり
上まを
毎

三月十六日刻

豊友

本間久雄様

以下



本村田恒友

右乃

画稿「青草」十葉ありて
中「ハハ」の字ありて
画明細り送り下りて
不画「ハハ」の字ありて

とくもなほ
なりし

あな先には未事
先凡の
船のこと
上つては
は常徳の沼河
中上
今も早稲田
せん
えん

信
木
心
谷
一
二

本
村
田
恒
友

立
り
七

さかほ便郵



小石川区高田

七尾松所十七

本岡久雄様

此の木の谷一三
本林田恒友

今日早稲田文の事有身法各事
せんふみせんぬし
ふんが肩ア、しとく、さり、さ、

信口谷一二

木林田恒友

立日七、

小石川区高田老松田

本岡久雄様

速達

与松七中



あな

せんが、い、ま、ま、の、こ、も、あ、ま、し、こ



郵便

本岡久雄様

速達

手紙を中

1916

あり

先生の文章のいそひあつたこと
よく思存があらうと
か。詰まるといふ目には、か
いと思つて居りましたので
すが、

ふゆえ君宛に封書
しました。(お父さんへ)
ました。よろしくお願
いいたします。

ふゆえ君宛に封書
しました。(お父さんへ)
ました。よろしくお願
いいたします。

まーん、どらくしはるん
かしら

いふが、お筆をさるる

しやー、おのれをいへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

おのれをいへる、いへる

あ

ちる

ほち

本間久根様

お下

あり

生るにまじのこもふあましこ
無名無名歩取つた一歩
た。皆々人にお目：かりな
いと思つてはります。たのび
すが、

六日夕暮れ村中ハ
まーん、(ちんを)ちんを
まーん、まーん、まーん
かしらまぢ

いふか、多筆と名ワ
しやーいもまも今ハ
出るつゆと居るましん
のますが何から出てま
せんまつかつて居ます
あそりーし、まらとまら

まらまら、まらまら
上まら、まらまら
まらまら、まらまら
まらまら、まらまら
まらまら、まらまら
まらまら、まらまら
まらまら、まらまら
まらまら、まらまら

まら

まら

本間久松様
の御下



木林田恒友書簡

本間久雄宛



本間文庫

文庫 14

C132

